




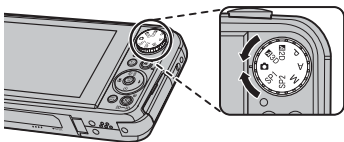
オートで 3D 撮影する

ここでは、**3D** 撮影の基本的な流れを説明します。オート以外の撮影モードに切り換える方法については、30ページを参照してください。

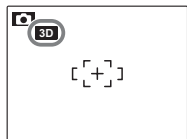
カメラの電源をオンにする

1 カメラの電源をオンにします。
レンズカバーを完全に止まるところまで開けます。

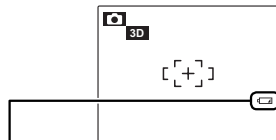
2 モードダイヤルを  に合わせます。







液晶モニターに **3D** が表示され、**3D** モードランプが点灯します。



3 バッテリー残量を確認します。
バッテリー残量を液晶モニターで確認します。



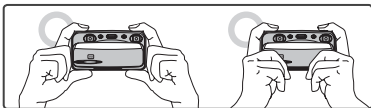
バッテリー残量

表示	意味
 (白点灯)	バッテリーの残量は十分にあります。
 (白点灯)	バッテリーの残量は約半分以下です。
 (赤点灯)	バッテリーの残量が不足しています。できるだけ早く充電してください。
 (赤点滅)	バッテリー残量がありません。カメラの電源をオフにして、バッテリーを充電してください。

カメラを構えて、構図を決める

1 カメラを構えます。

- 手ブレを防ぐため、脇をしめ、カメラを両手でしっかりと持ってください。液晶モニターは正面から見てください。

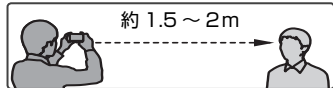


- カメラを持つときは、指がかりを防ぐためレンズの下のスペースを十分にあげてください。
- レンズやフラッシュに指などがかかると、ピンぼけや暗い写真になったり、立体に見えにくいことがあります。ご注意ください。



●● **3D** 撮影の推奨距離範囲

3D 撮影をするときは、被写体との距離を約 1.5m ~ 2m (広角端) 離して撮影すると、うまく撮影できます。



2 構図を決めます。

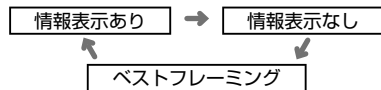
- 被写体の中心を液晶モニターの AF フレームに合わせ、構図を決めます。
- このカメラは光学ズームを装備しています。ズームレバーを動かして、構図を調整します。
- 液晶モニターを横から見ると、立体に見えないことがあります。

← チェック

- 推奨距離範囲外 (→ 121 ページ) の被写体を撮影した場合、立体に見えにくいことがあります。
- 遠景や夜景など、立体に見えにくい被写体があります。
- 画面の端にある被写体は、立体に見えにくいことがあります。

●● フレーミングガイドを使う

撮影時に **DISP/BACK** ボタンを押すごとに、液晶モニターの表示が次のように切り換わります。



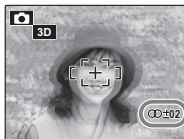
ベストフレーミング : ベストフレーミングを使うと、縦横にガイド線が表示され、構図が決めやすくなります。

← チェック

「情報表示なし」にすると、**3D** 画像が見やすくなります。

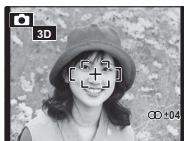
●● **3D** 撮影の視差調整について

3D の見え方を調整したい場合などは、**∞** (視差調整) レバーで、視差 (→116 ページ) を調整します。手動で調整した視差量は液晶モニターに % 表示されます。



そのまま撮影すると、調整した視差で撮影されます。調整した視差をリセットしたいときは、**3D** ボタンを押して **2D** モードにしてから、再度 **3D** ボタンを押して **3D** モードにしてください。

視差を調整すると、左右に黒の帯が表示され、撮影範囲が狭くなります。



📌 メモ：オート視差調整

撮影メニューの **∞** オート視差調整を ON にすると、**3D** 撮影時にカメラが自動的に視差を調整します。ただし、ON/OFF の設定にかかわらず手動でも視差調整できます。

📌 注意

視差をつけすぎると、立体視できない場合があります。

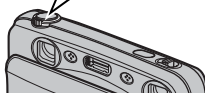
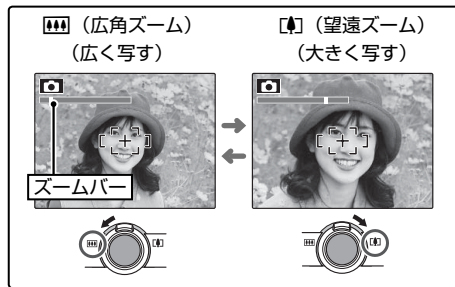
📌 注意

被写体を画面の中央に配置しないときは、必ず AF/AE ロック (→42 ページ) を使ってください。AF/AE ロックをしないと、被写体にピントが合わないことがあります。

●● ズームを使うには

ズームレバーを操作すると、ズームが作動して被写体の大きさを変えることができます。

広い範囲を写したいときは **⏏** 方向、被写体を大きく写したいときは **⏏** 方向に、ズームレバーを動かしてください。



📌 チェック

拡大しすぎると、立体に見えにくいことがあります。

ピントを合わせて撮影する

- 1** シャッターボタンを半押しして、AF フレーム内の被写体にピントを合わせます。



ピントが合ったとき

左右両方のレンズでピントが合ったときは、ピピッと音が鳴り、インジケーターランプが緑色に点灯します。

ピントが合わないとき

AF フレームが赤色に変わり、**!AF** が液晶モニターに表示され、インジケーターランプが緑色点滅します。構図を変えるか、AF/AE ロックを使ってください (→ 42 ページ)。

☛ チェック

シャッターボタンを半押しすると、レンズ動作音が発生します。

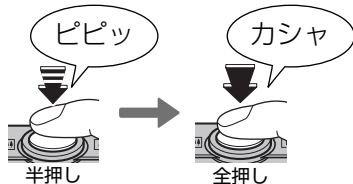
- 2** シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込みます (全押しします)。写真が撮影されます。



● シャッターボタンの半押しと全押しについて

シャッターボタンを軽く押して、そのまま指を動かさないことを「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しすると、ピントと明るさが決まります。

指を放さずにさらに深く押し込む (全押しする) と、写真を撮影できます。シャッターボタンを押すときは、カメラが動いて手ブレが起きないように、静かに押し込んでください。

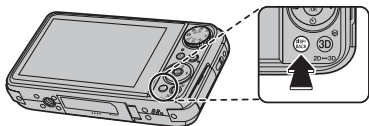



☛ チェック



暗い場所では、シャッターボタンを全押ししたときに、フラッシュが発光することがあります。フラッシュが発光しないようにフラッシュの設定を変更できます (→ 45 ページ)。

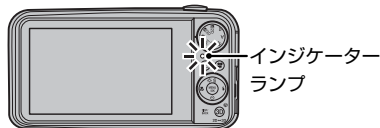
マナーモード

フラッシュ光やシャッター音などを避けたい状況での撮影には「マナーモード」を使います。マナーモードは、**DISP/BACK** ボタンを長押しして設定します。



マナーモードに設定すると、フラッシュが発光禁止になり（撮影モード **SP1/SP2** の  を除く）、操作音やシャッター音、動画の再生音がオフになります。セルフタイマーランプ（イルミネーションランプ）も発光しません。

- ・マナーモードに設定すると、液晶モニターに  が表示されます。
- ・もう一度 **DISP/BACK** ボタンを長押しすると、マナーモードが解除されます。
- ・フラッシュ設定（→ 45 ページ）や音量（→ 89 ページ）を変更したいときは、まずマナーモードを解除してください。
- ・マナーモードはセットアップメニューの  **マナーモード** から設定できます（→ 89 ページ）。

インジケータランプ

インジケータランプの色や点灯 / 点滅で、カメラの状態がわかります。

インジケータランプ	カメラの状態
緑色点灯	被写体にピントが合っています。
緑色点滅	手ブレ警告、AF 警告、AE 警告です（撮影できます）。
緑と橙色の交互点滅	メモリーカードまたは内蔵メモリーに画像を記録しています（続けて撮影できます）。
橙色点灯	メモリーカードまたは内蔵メモリーに画像を記録しています（撮影できません）。
橙色点滅	フラッシュ充電中です（フラッシュは発光しません）。
赤色点滅	画像記録異常、またはレンズ異常です。

メモ：警告表示について

液晶モニターにも、警告表示が表示されます。詳細は 111 ページを参照してください。